

第55回 電力・ガス取引監視等委員会

議事録

日 時：平成28年10月21日10:00～10:20

場 所：経済産業省 本館2階西8共用会議室

議 題

(1) 定期報告徴収により取得した情報の月次報告について

○八田委員長　それでは、定刻になりましたので、ただいまから第55回の電力・ガス取引監視等委員会、第1部を開催いたします。その後、非公開の第2部を行います。

議題は議事次第にあるとおりです。今回は1つだけです。なお、本日、参考資料として、来年4月から開始されるガスの小売全面自由化に向けて、消費者向けのQ&Aを配付しておりますので、適宜ご参照ください。

それでは、早速ですが議事に入ります。議題「定期報告徴収により取得した情報の月次報告について」です。資料3に基づいて、小売取引について佐合課長から、卸取引については田邊室長からご説明をお願いいたします。

○佐合取引監視課長　それでは資料3-1、全体の資料でいうと5ページ目です。資料3-1の2ページ目をごらんください。全体でいうと6ページ目の資料でございます。

まず新電力の市場シェアでございますけれども、特高・高压分野で初めて10%を超えたということになってございます。7月時点において、特高・高压分野における新電力のシェアは10.9%、これは前月が9.6%でございますので、かなり伸びたということかと思えます。また、低压分野においても新電力のシェアが伸びておりまして、前月1.3%だったものが1.8%ということでございます。総需要に締める新電力の市場シェア全体で見ますと、これで7.9%ということになってございます。これは7月検針時点のもので、その後またスイッチングも進んでおりますので、直近ではまたかなり数字が変わってきているかと思えます。

3ページ目、地域別の新電力シェアでございます。地域別の新電力のシェアをみますと、東電管内の特高分野、ここはかなり新電力のシェアがふえたり、ちょっと下がったり、ま

たふえたりということで、ぎざぎざとした動きをしておりますけれども、これは特高のお客さんに対して、一般の電気事業者と新電力がそれぞれ競い合っているということかなと思います。それ以外、そういう意味では新電力のシェアは地域別にみてもかなり伸びてきているということかなと思います。新電力の販売電力シェアが高い地域としましては、関西エリア、東京エリア、北海道エリアということかと思えます。関西、北海道、やはりちょっと電気料金が相対的に高いということが、新規参入などが入りやすいという要因になっているのかもしれない。

それから4ページ目に行ってください、地域ごとの事業者別シェア、これは全電圧でございます。みなし小売電気事業者及びその子会社による旧供給区域外への進出というのは、やはりまだ進んでいない状況かと思えます。旧供給区域外への供給は全体の約0.6%ということで、前月に比べると0.1%ふえているということでございますけれども、そういった状況であります。地域別でみると、済みません、ちょっと誤植がありまして、「北海道」、その後が抜けていまして、「東北、東京、中部、関西地域において域外供給が存在する」という状況であります。東電管内、新電力のシェアに比べると、関西などでは一般電気事業者の域外供給の量が、そこそこシェアがありますけれども、東京はその比率が低いようではあります。絶対の販売量をみると、前月に比べると1割ぐらいはふえてきていて、今後、動きをみる必要があります。最近でいうと、北海道電力さんなんかも家庭分野で東京に販売するメニューを発表されたりもしていますので、今後、進展するのかなと。ただ、西から東にもってくるような場合には、FCの制約などもございますので、そういった物理的な制約なども効いてくるかと思えますので、その辺もみていきたいと思えます。

5ページ目でございますけれども、これは今のシェアを電圧別に展開したものでございます。特高・高圧分野では、北海道や関西、東京を中心にみなし小売電気事業者、その関連会社による域外供給が行われているということでございます。低圧分野においては、やはりまだ旧一般電気事業者のエリア外供給というのは、一般的には進んでいないということでございますけれども、関西エリアでは比較的多いという状況は変わっておりません。

6ページ目、7ページ目は参考資料でございます。新電力の販売電力シェア（全電圧）で見たときに、上位10社の順位というのは基本的には変わっていないのですが、先月12位だった東京ガスが10位に順位を上げているということでございます。

以上であります。

○八田委員長　　ありがとうございました。

○田邊卸取引監視室長　引き続き、卸のパートを8ページ以降でご説明させていただければと思います。

8ページでございます。9月の卸取引の、取引所取引の全体像でございますけれども、JEPXの会員数は前月と変わらず――1社、10月1日時点では減るみたいでございますが、9月としては変わらなかった。あともう1つ、スポット市場の平均約定価格7.92円となっておりますが、これは需給状況が緩和していることによって価格が下がっているのかなとは思われます。

9ページでございますが、スポット市場の入札量でございます。入札量としては、売りは8月に比べて若干増加しているということでございます。若干下がっているところもありますが、天候等の、あるいはお休みの期間というのも影響があるのかなと思っております。

10ページ目の事業者別の売り入札量でございます。全体としては8月に比べて一般電気事業者はふえていますけれども、天候等の影響で、真ん中がぼこっと下がっているというところがあるかと思えます。

11ページ目の買い入札量でございますけれども、買い入札量としましては、旧一般電気事業者は減っておりますが、これも季節性の、夏のピークが過ぎた後の影響かなというように思われます。

12ページはスポット市場の約定量についてでございます。これも季節性のものかと思われましても、約定量としては減っているという状況であります。

13ページ、事業者別の売りの約定量でございます。旧一般電気事業者がオレンジ色で、新電力その他が水色でございますけれども、9月の真ん中以降に下がっているのは、これは先ほど申し上げた天候による影響などが考えられるかなと思われます。

14ページが買いの約定量でございます、引き続き新電力その他の買い約定量が多うございますけれども、9月の中旬、下旬以降に若干下がっているというところがあります。

次に15ページの、各エリアプライスでございますけれども、9月の30日時点でみますと、東北、東京エリアプライスが8.94円、7日間移動平均のシステムプライスが7.55円、北海道が12.22円で、後でご説明します市場分断による影響があるかと思われます。

16ページが市場分断の状況でございますけれども、北本連係線が9月で7割強になってございますが、大きな工事があったというわけではなくて、純粹に取引量の増加によるもので分断をしているということかと思われます。

17ページは飛ばさせていただきます、最後、18ページでございますが、時間前市場の約定量でございます。前月に比べて若干減っていると。季節性のものかと思われます。

以上でございます。

○八田委員長　ありがとうございます。

それでは、ただいまのお二方のご説明に対して、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

では、私から佐合さんに質問ですが、特別高圧に関しては、この4月の自由化以降、低圧ほど、制度的に大きな変更は起きていないはずなのに、非常に取引量がふえていますよね。これはどういう原因だということにお考えですか。

○佐合取引監視課長　おっしゃるとおり、特別制度的な変更があったわけではないのですけれども、一般的な電力の自由化という話が、より認知度が高まってくる中で、需要家も、電気料金に対する意識が高くなったのではないかという気はいたします。あと、取引所の取引量がそれなりに、従前よりは少しずつふえてきているということなので、その電源の調達のしやすさが、他地域への参入とか、あるいは新電力による販売を多少はしやすい状況にしているということなのかなとは思いますが。

○八田委員長　そうすると、ニワトリが先か、卵が先かの話ではあるのですが、取引所の取引もふえていますよね。これの原因というのは低圧だけではないと思うのですが、これはどのようにご説明になりますか。

○田邊卸取引監視室長　9月は、8月に比べると需要そのものが減ることになるかと思えますので、その分、取引所に出てくる量というのはふえてくるのかなと思われます。ただ9月は天候が余りよくなかったというのがありまして、太陽光が出てこないというところが若干あったのかなと。その分、売る量として、あるいは約定量として若干減ってしまうというところはあったのかなというようには思っております。

○八田委員長　たしか、4月から9月末までで合算すると、前年と比べると大体4割ぐらいふえていますよね。だから、この取引量が大幅にふえているということが、どうも低圧の開放だけでは説明できないと思うのですが、ここに関して、どのようにご説明になりますか。

○田邊卸取引監視室長　取引所取引の取引量は、総体としてはおっしゃるようにはふえております。その要因については、クリアに、これが明確な理由ですということ網羅的に申し上げることはなかなか難しいかと思っておりますが、他方で、一般的には旧一般電気事

業者が取引所取引をより活用するというようなことで、自主的取り組みをしている中でふえている部分というのもあるかと思えますし、委員長おっしゃるように、自由化の、低圧のところだけではないかもしれないですけども、取引所を使って調達をしていくというようなことが必要な場面というのが、より多く出てきているとは思っております。

○新川総務課長 補足でございますけれども、この4月から参入をした新電力の方々というのは、かなり小さい会社が多くて、2000年以降、それなりのキャッシュをもって参入をされている方は電源もおもちになっている場合もありますが、4月から参入された方は電源はまだおもちでない中で、常時バックアップと市場からの調達が非常に主力を占めているということで、新電力の買入札量をみますと、4月からずっと上がってきていて、それが約定量の上ってきているのと一定の相関はあるようにみえますので、そういう意味では新電力の購入量がふえているというのが1つで、当然、売るほうがなければ成立しませんので、一般事業者も4月以降、それなりにちゃんと弾は出しているという状態にはあるかと思っております。

○八田委員長 今のご説明だと、小さなところが特に低圧を中心に調達すると。

○新川総務課長 必ずしも、小さなところだからといって低圧を売っているというわけでもございませんで、やはり売りやすいのは、ちょっとでも大きなところに売りやすいということでもありますので、小さなところも関連する、できるだけ大きなところに売っていかうとしているということではございます。

○八田委員長 そうすると、とにかく何らかの理由で取引所の取引がふえて、だから、高圧や特別高圧も、取引所を使いやすくなったから全体的にふえたという筋書きなのですが、もともとの取引所の取引がふえたところが、新電力の取引がふえたのだけれども、それは必ずしも低圧ではないと。そうすると、やっぱり低圧の開放以外に何か原因があったのかということになってくるのですが、結局は計画地同時同量、インバランス生産がどれだけ効いているのかという分析が必要なように思って、この12ページのスポット市場の約定量の推移をみると、5月、6月ぐらいまでは大してふえていなくて、7月ぐらいからふえている。これはもちろん季節要因があるけれども、過去の季節要因と比較して、ここのところでもし違いがあるとしたら、インバランス生産のところ、システムのぐあいがある程度改善したというようなことが影響しているかもしれないし、この辺は回帰分析とかしてみる価値があるのではないのでしょうか。

○田邊卸取引監視室長 以前の委員会でも委員長からご指摘いただいております、今、

おっしゃった計画値同時同量によるものなのかというところも含めて、どういう検証ができるかというのは考えていきたいと思っています。

○八田委員長　いずれにしてもいい傾向だと思うのだけれども、その原因が知りたいなということです。

ほかにご質問、ご意見ございませんでしょうか。

○稲垣委員　地域別の新電力シェアで、紙の資料の3ページなのですが、ちょっと見方を教えてもらいたいです。まず東京についてみると、2015年以降、上下にぎざぎざしているわけだけれども、これで抜いたり、抜かれたりという説明がありましたが、具体的な競争の現象としては何が起きているのかということをお教えしてもらいたい。

それからもう1つは、北海道から九州までみていってみると、トレンドというか、方向が、低圧、それから特高については右肩上がりに上がっていているのだけれども、一番下のところで動いている、これが違う方向で動いていたり、例えば中国などだと7.1、4.2という形で上を向いているのだけれども、1.4のところは下を向いていて、最終的に一番下のところでみると0.1と横ばいだったりする。方向が違うというのは、ほかとの関係でどのようにみればいいのかということで、これは表記の仕方の関係でこのようなことになるというだけなのか、何か現象があるのか、教えてもらいたいです。

○佐合取引監視課長　中国のところですが、一番下の0.1というのは低圧のところでありまして、まだ数値が、傾向がグラフにあらわれるほど大きな、上を向いているのか、下を向いているのかというところの動きは出ないのだと思います。

あと、1.4%という、前月の数字は今、生のデータがないのであれですが、4月から比べると、そういう意味ではそこも少し上昇傾向ではあります。ただ、例えば中国なり、西のほうで、すぐ単価はわかりませんが、特高で、比較的既存の電力会社がアワー当たりでかなり安く、不活線？の高いお客さんに供給しているところというのはなかなか新電力は入りにくいということがありますので、シェアの伸びが、そういう意味では上向きの傾きが小さいのかもしれない。

あと東京のぎざぎざしているのは、正確なことは調べたいと思いますが、契約口数も変動していると聞いておりまして、済みません、手元にデータがないので恐縮ですが、実際に契約の切りかえなどが行われているということかと思っています。料金メニューの提示をしながら、大口のお客さんをとれるところをとるといって競争が行われているのかなと思います。

○稲垣委員　　ありがとうございました。

○八田委員長　　ほかにごいませんでしょうか。

それではご報告、どうもありがとうございました。毎回、こうやってみていくのは大変役に立つと思います。

第1部で予定していた議事は以上です。もし事務局より連絡がありましたら、よろしくをお願いします。

○新川総務課長　　第2部については準備が整い次第開催をさせていただきます。ありがとうございます。

○八田委員長　　それでは、これで第1部を終了いたします。どうもありがとうございました。

——了——